

(別紙様式2)

普及指導員調査研究報告書

課題名：若い女性農業者が取り組む働きやすい作業環境づくり

所属名：岩国農林水産事務所

担当者氏名：平田三佳

<活動事例の要旨>

物置として使用されていた倉庫の作業環境づくりをきっかけとして、主体的に経営参画できる若手農業女子の育成活動を実施した。

取り組みを通じて、女性を含むすべての作業者が快適に働ける職場環境づくりが進むとともに、会社全体での改善意識やGAPへの意識が高まった。

1 普及活動の課題・目標

主体的に経営に参画できる若手女性農業者の育成に向け、働きやすい作業環境づくりを支援する。

2 普及活動の内容

(1) 活動の背景

合同会社Sは、家業である水稻を引き継ぎ、令和元年に設立した一戸一法人である。代表は妻が務め、主に経理を担当、役員として主にオペレーターを担当する夫で構成され、今年度新たに娘M氏（※活動対象）が社員として加入した。

法人はデジタル技術を活用したスマート農業による効率的な水稻作業や、収益性の向上を目的として新規作物（アスパラガス）の導入、経営管理にGAP認証取得を目指すなど、持続的に経営できる体制の構築にむけ試行錯誤をしている。

M氏は就業後、法人の野菜担当となり、アスパラガスの栽培を担うようになった。

M氏は農業大学校で学んだGAPの考え方を踏まえた栽培をしたいと考えており、担当するアスパラガスの調製作業場の改善に取り組むこととなった。

(2) 活動内容

ア 能力向上に向けた学習機会の創出

- ・GAPの考えに準じて働きやすい環境づくりをテーマとして開催される県セミナーの開催について情報提供を行った。
- ・県セミナー受講時に同行し、サポート役として講義内容の理解度の確認、助言を行った。
- ・現地研修に対応し、改善事項等講師の指摘ポイントを一緒に確認し、内容を整理したものを実践に向けた資料として提供した。



現地研修の様子

イ 実践活動支援

- ・アスパラガスの調製作業場の改善に取り組むため、計画的に実践できるよう、定期的に訪問し、進捗状況の確認とスケジュール管理を行った。
11月：整理整頓の手順ならびに改善に向けたレイアウト図を作成し、会社で共有した。
今後片付けに着手する予定。
- 12月：アスパラガスの調製作業場の不要なものの運び出しを完了。害虫（ねずみ）

の対策が必要なことが分かったため、戸棚の整理終了後、壁の補修と合わせて対策を実施する予定。

- 1月：具体的な改善案を社内で検討し、壁に板を貼り、コンクリートで土間を整備することになった。
- 2月：改善を実行し、作業場の改善が完了した。

ウ 今後の経営目標確認

- ・経営課題を解決するために学びたいことの意向を確認したところ、デジタル技術を活用した経営管理や農産物のブランディングに関心を持っていることがわかった。

エ 仲間づくりの促進

- ・地域ステキ女子会を案内し、参加者同士の情報交換を実施した。
- また、マルシェ企画の協議にも加わり、参画をイメージした話し合いを行うことができた。



地域女子会で情報交換

3 普及活動の成果

(1) 快適な調整作業場の整備

作業を確実に実施するため、毎月進捗状況の確認を行うことを事前に伝え、訪問の際は取り組めたことの確認、次回訪問までに取り組む予定を聞きとることで、毎月実施する内容、手順を自ら考え、アスパラガスの調整作業場をGAPに準じた作業場に改善することができた。

娘が主体的に取り組むことで、家族の応援態勢が敷かれ、円滑に実施できた。



改善前



整理後



改善後

(2) 個別課題の把握

作業改善のための面談を重ねる中で、今後どのようなことに取り組みたいと考えているかを聞きとることができ、関連するセミナーの情報等、適宜、情報提供を行った。

(3) 仲間づくりの支援

M氏と同世代の女性農業者が少ないことから、管内の若手女性農業者とつながる場ができた。

今後、マルシェ等の実践活動を共に行うことで、仲間意識が醸成されると思われる。

4 今後の普及活動に向けて

関係機関と連携して若い女性農業者の掘り起こしを行い、セミナーや個別の課題解決支援を通じて経営参画者として活躍できる女性の育成とネットワークづくりを推進する。